

事件名：偽造収入印紙一万円

発生時間：2011年5月初め

発生場所：東京都内

行使手口：詐取換金

鑑定結果：偽造券（高精度）

偽造収入印紙一万円鑑定マニュアル

偽造通貨対策研究所編

（作成日：2011/5/21）

1. 全体写真：偽造券



2. 全体写真：真正券



3. 全体写真：偽造券裏面



偽造券で波紋状のすかしは印刷で再現されている。そのため反射光で視認することができる。

4. 全体写真：真正券裏面



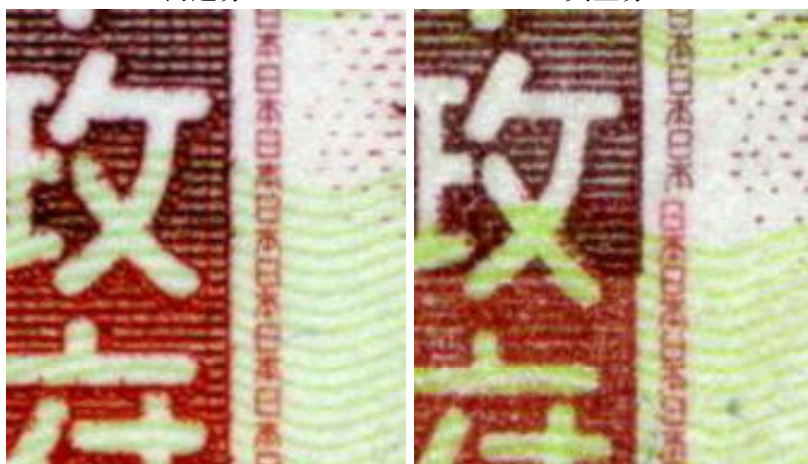
5. マイクロ文字（印刷）

1) マイクロ文字

「日本日本」の連続印刷が偽造券でも再現されている。ただし、赤と茶色に色が分かれそこに段差ができています。

2) 単色製版

このことから偽造券では多色製版ができない低級印刷機が使用されていることがわかる。

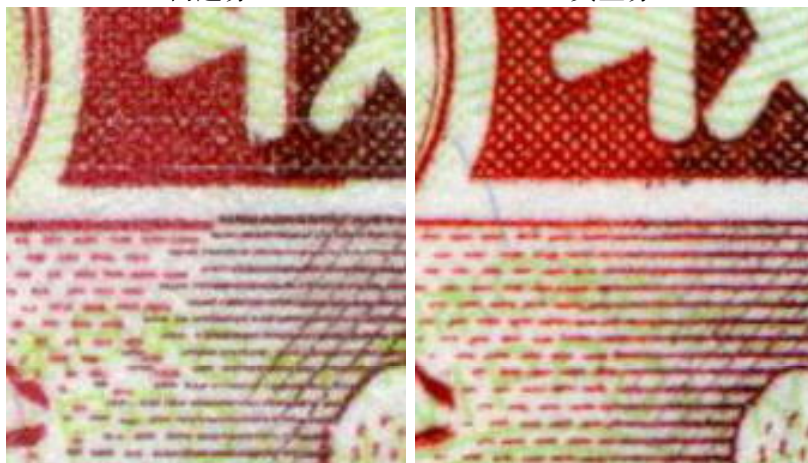


6. 段差とグラデーション

前項5の写真でも偽造券では真正券にみられるグラデーションのような多色製版ができないことから版を重ねて印刷するためずれが生じ、段差ができています。

偽造券

真正券



7. 印刷位置ズレ 1

偽造券によく見られる紙面上のトリミング位置のずれについて、真正券では波紋模様が見られるのに対し、偽造券では罫線下に埋没し画線が見えない。

さらに偽造券ではミシン目まで距離があり全体画像では真正券より下側にずれている。

偽造券

真正券



8. 印刷位置ズレ 2

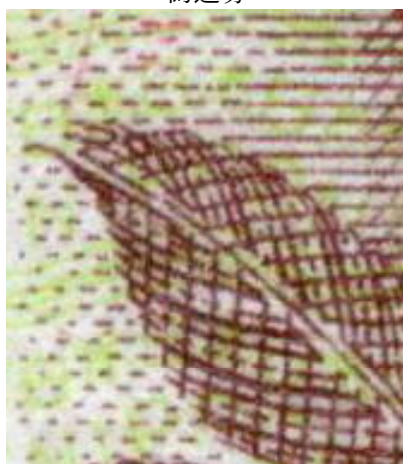
茶色いループ状の画線の中に、偽造券ではその中心に放射線状五分割画像のセンターがあるのに対し、真正券ではやや上側に位置している。



9. 葉っぱの画線印刷

微細画線の集合部分については真正券では、あたかも葉っぱの外側に輪郭線があるように見えるのに対し、偽造券では画線に力がないためメリハリのない葉っぱに見える。

偽造券



真正券



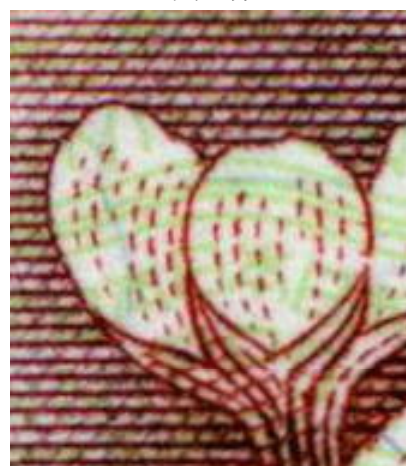
10. 花の画線改ざん痕

偽造券では萼（がく）部分の微細画線が改ざん加筆痕跡が見受けられる。花卉部分についても偽造券では縦方向の画線が太く描かれ真正券とは異なっている。

偽造券



真正券



11. 文字デザインの差異 1

「本」字について真正券では第1画横画線が下向きに強く湾曲しているのに対し、偽造券では緩やかに湾曲している。偽造券では真正券に比べ画線がうすい。



12. 文字デザインの差異 2

「1」字の字体について偽造券と真正券では異なっている。始筆部先端の形が偽造券では台形であるのに対し、偽造券ではくさび形となっている。終筆部台座部分について偽造券では角であるのに対し、真正券ではラウンドとなっている。

偽造券



真正券



13. 文字デザインの差異 3

「0」字、「,」字について「0」字では偽造券は真正券に比べ文字高が低く画線が太く描かれている。「,」字については偽造券と真正券ではデザインが微妙に異なっている。説明としてはオタマジヤクシの尻尾部分が偽造券では細い画線であるのに対し、真正券では太い画線となっている。

偽造券

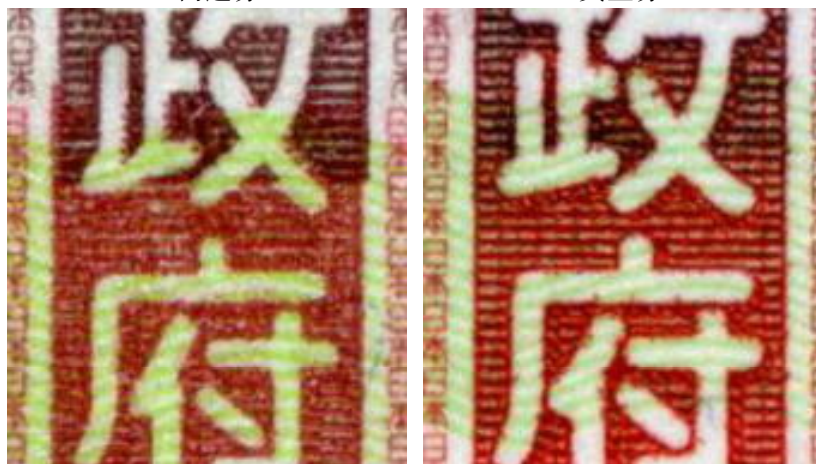


真正券



14. 文字デザインの差異 4

「日本政府」の「政」字について第5画の傾斜角度、第8画の終筆部の上下位置、「府」字については第1画の点について偽造券では画線が細く不鮮明であるのに対し、真正券では太く明瞭である。



15. ミシン目

いわゆるミシン目について、真正券ではきれいな真円（または半円）で切られているのに対し、偽造券では形がくずれている。刃先の切れ味が悪いためこのような現象が生じていると思われる。

偽造券



真正券



16. 着色混抄繊維

いわゆる漉き込み繊維は真正券では文どおり漉き込まれているのに対し、偽造券では実体はなく印刷により再現しようとしている。

もし真正券の繊維を針の先で突けば生地の中からは、すっと抜き出すことができる。

偽造券



真正券



17. 紫外線の蛍光反応

紫外線をあてると波紋模様の蛍光反応が生ずるが偽造券ではその輝度が弱い。



表面

裏面

偽造券

真正券



偽造券

真正券

真正券では裏面に表側の蛍光が紙を透過して見える。偽造券では輝度が弱いためそのような現象は見られない。

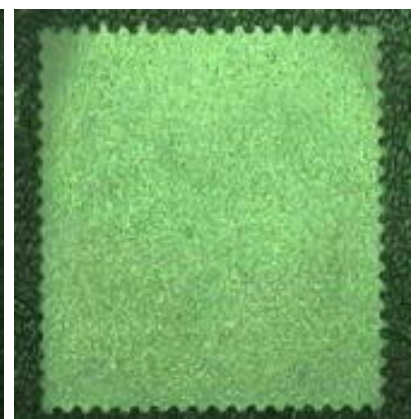
18. 赤外線透過反応

赤外線を照射すると表面真正券、偽造券とも画像が消えるような現象は起きない（例：400円収入印紙では真正券画像は赤外線を透過するため消えたように見える）。

ただし、偽造券が赤外線の反応を配慮して製造されたかどうかは不明である。

偽造券

真正券



裏面

19. 透過光によるすかしの視認

偽造券

真正券

透過光によるすかしの視認では偽造券ではすかし（濃淡）画線がくっきり鮮明に見えるのに対し、真正券では輪郭線が不鮮明となっている。

前者は印刷により再現しているのに対し、後者は紙の凹凸による本来のすかしであるため異なる現象が生ずる。



20. 斜光線による表面凹凸反応

可視斜光線により印表面刷面にある凹凸が明暗現象により顕在化される。

真正券では凹版印刷により、画線が盛り上がっているのに対し、偽造券では平版印刷と見られインク画線の盛り上がりは見られない。



裏面は使用されている糊の性質から偽造券と真正券では異なる斜光線画像が得られる。偽造券の糊付着面には粒状の凹凸が見られる。

裏面



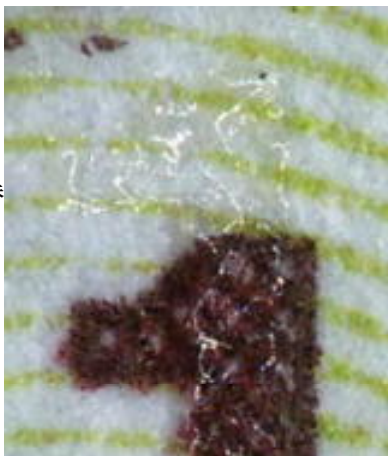
21. 光沢印刷で凹版モドキ

1) 数字部分

偽造券の金額を示す数字に何やら光った透明状の実体物が見える。真正券ではこの部分が凹版印刷でインクが盛り上がり光沢が見える。

偽造券ではいわゆるエナメル印刷（透明樹脂インク）の施工でインクの盛り上がり感と光沢を再現している。

偽造券
の拡大



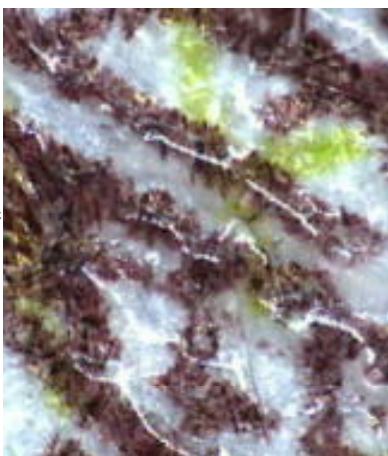
真正券



2) デザイン（葉っぱ）部分

偽造券の葉っぱ部分にも光沢印刷は見受けられ、真正券と見まごうほどの出来映えである。本来はスキャナー写らないため偽造防止対策に用いられる特殊印刷であるが、これを逆手にとった偽造者の悪知恵には驚かざるを得ない。

偽造券
の拡大



真正券

